

第4章

データ分析及び考察

A. データ分析

本研究には筆者は日本語慣用句における「鼻」、「目」、「口」、「耳」、「舌」に含まれている字義通りの意味や慣用の意味、及びその慣用語に含まれている両意味の関係に関する分析を行う。

1. 鼻が高い

例文：「私の教え子はノーベル賞を受賞して、私も鼻が高いである」。

「鼻が高い」という慣用句は「鼻」と「高い」といった語彙素から構成される。この慣用句は「形容詞慣用句」の分類であり、下記のような品詞・助詞から構造される。「名詞+助詞”が”+”イ”形容詞」

字義通りの意味は身体部分としての「鼻」に中心される。また、広辞典(1989: 1185)による「高い」の意味は、「空間的な位置が上方にあって下との距離が大きい」ということである。具体的には下記の例文のように説明する。

「富士山は日本で一番高い山だ」、「背の高い人」。その例文においての「高い」とは高い及び低い位置或いは立場を表している。「鼻が高い」という慣用句は身体部の「鼻」、「が」の助詞、位置のことを表している「高い」という語彙から構成される。「鼻が高い」慣用句の字義通りの意味を見ると「鼻

の位置が高い」ということを表している。「鼻が高い」慣用句は実際の意味の「鼻が高い外国人」を表す場合にも使用されている。インドネシア語の「hidung manusia mancung」と「hidung manusia yang tidak mancung <pesek>」を表現する日本語は「鼻が高い」或いは「高い鼻」及びその反対語は「鼻が低い」或いは「低い鼻」である。これは、この慣用句の字義通りの意味は自然の意味を持っていることを表す。このように、この慣用句は二つの意味を持ち、それは字義通りの意味と慣用の意味である。

「鼻が高い」慣用句の慣用意味を把握するため、下記のように様々な例文を挙げる。

- (64). 応援しているチームが Jリーグで優勝して、僕も鼻が高い。(Kaneda, 2005 : 112)
- (65). 有名になって鼻が高いところもありますわね」。でも、無名のまま、知らぬがほとけ仏で守っていければよかった、とも思うのである」(Suzuki, <http://www.aozora.gr.jp/>)

(64) の例文においては主語は「僕」であり、誇ることとしては応援しているチームが J-リーグで優勝したことである。(65) の例文には主語が「私」であり、自分が優れていて、有名になったため、自慢をする。(64) と (65) の例文の中には気持ちの範囲は優れていて、自慢できる自分のことである(主語と目的語として)。

- (66) この学校の卒業生が、オリンピックに出ることになり、先生も鼻が高いである。(Kaneda, 2005 : 112)

(67) わが校の出身者から文化くん章の受賞者が生まれて、校長としても鼻が高い。

(Kaneda, 2005 : 112)

ほかの例としては (89) と (90) の例文のようである。教師や学長は獲得のある生徒を持つため、自慢を感じる。(89) の例文には、生徒が卒業生になったが、オリンピックに出るため、学校の威信も高くなり、学校の誇りになる。さらに、その生徒を教えた教師も、オリンピックにでるような生徒は多くないため、先生が自慢するはずである。他方、同様な例文が (90) の例文にある。自分がリーダーした学校の出身者が文化くん賞を受賞したため、学長が自慢する。このように、「鼻が高い」慣用句が学校の環境にも活用され、自慢する主語としては学長や教師たちであり、目的語としては当校に学習しているあるいは学習した偉業を持っている生徒である。

(68) 子供が消火活動で表彰されて、親としても鼻が高い。(Kaneda, 2005 : 112)

(69) お前が司法試験に合格したというので、父親として私も鼻が高いよ。
(Muneo, 1992: 151)

(68)と(69)の例文においては、自慢をするのは親、つまり父であり、子供が功績を持ち、試験に合格できたことについて。(91)の例文では、消火の活動で表彰され、功績を持っていることについて、親は誇りに思う。(92)の例文にも同様で、試験が難しくても合格できない司法試験に合格できる。親として(父親)、業績を持っている子供に対して誇りを持つ。「鼻が高い」

慣用句も家族の環境にも活用される。ここでは、自慢する、誇りを持つ主語としては親であり、目的語としては表彰されたり、試験に合格する等のような業績を持っている子供、親が子供に対して誇りを感じる。

(70) 彼は美しい娘を持って鼻が高い。(www.dic.yahoo.co.jp)

(71) あ的那个人は鼻が高い。(Kunimi, 1972 : 835)

一方では、(70) の例文においては主語は第 2 者であり、自慢するのは「彼」で、他人が持たないかもしれない美しい娘をもつためである。また、(71) 例文には主語は第 3 者の「あの人」である。この文書での「鼻が高い」と言うのは米国の人のような身体部の「鼻」が高い或いは高い鼻を表していないが、慣用の意味を持っている。それは、自分のことを自慢するまたは「横柄」の態度を持つことである。上記のような例文は「鼻が高い」慣用句の慣用的の意味の使い分けを表示する。基本的には、この慣用句の慣用の意味は「自慢する」ことを意味する。使用する場面として、誰かが自慢できるような業績や長所をもつ時である。対象は自分であり、自らにいる親密のことである。前述の例文からまとめると、「鼻が高い」慣用の主語は第 1 者・第 2 者と第 3 者であり、自分自身や自らにいる人たち（学生、子供、応援しているチームなど）に対して、試験に合格、リーグで優勝、受賞するなどのような難しいことや他人が達成できないスキルや獲得ができるため、自慢や誇りを感じる。そのため、当人は他人に対して、自分の存在を主張する気持ち

を持つ。自分が偉いと考えているため、自慢の気持ちが生み込んで、ある場合は「横柄」になり、悪い印象になってしまう。

スヘルマン (2002: 88) の考慮と同様で、インドネシア語での「鼻が高い」慣用句は「*kembang lubang hidungku*」と「*besar hidung*」の慣用句と同様で、両方の慣用句が自分のことを自慢することや横柄であること意味を持っているため、悪い印象を持つ。また、ステディ (2003: 103)によると、「鼻が高い」慣用句はインドネシア語の「*sombong*」と「*besar kepala*」を表すときに使用する。意味としてはスンダ語での「*agul* (自慢する・横柄)」と変わらない。

字義通りの意味や慣用の意味の両意味の関係は次のように記述する。「鼻が高い」慣用句の字義通りの意味は「鼻（の位置）が高い」である。一方、慣用の意味は自慢や横柄のことである。これは日本人としての「鼻」の語彙素の主な意味は自分自身の象徴であることと関係する。日本人が自己紹介するときに、右手の指し指が自分の「鼻」を指して、「これは自分だ」ということを表現する。身体部のひとつの「鼻」のみ指しているが、意味が拡張して、身体部分（部分的）としての「鼻」から→「自分」全体の体（全体的）になる。全体を現すときに使用する部分の使用の関係は「部分・全体」のメトニミー関係のひとつの例である(Sutedi, 2009: 75)。

また、他の面から見れば、この慣用句の意味拡張はメトニミーによって出てきたということがわかった。自慢する人のイメージをすると、物事を他

人に対して自慢で見せる場合に、顔が少し上がる状態になるため、鼻の位置も同時に上がるようになる「鼻が高くなる」。お辞儀の習慣を持っている日本文化の面では前述のことが無礼なことである。日本文化においてもインドネシア文化においても、尊敬や謝りを表現するときにそれぞれの特徴を持っている。日本人の場合は、尊敬や謝りの感情をお辞儀で表現する。広辞典(1989: 264)の中には、お辞儀は頭を下げて敬礼することである。お辞儀は、感謝し、謝り、卒業する等の時に行う。お辞儀をしない日本人は無礼の人だと考えられる。頭や最も体を下げる時間が長ければ長いほど敬礼や表したい感情の程度を表現できる。

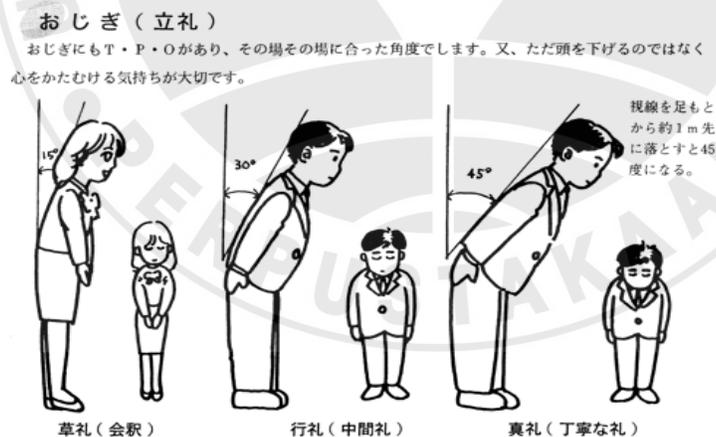


図3 おじぎの絵

日本文化が新しく学習している外国人の中によく発生している間違いは、お辞儀をするときに、顔面を下げず、相手側を見ることである。これは、日本文化の面から見れば、よくない行動であり、相手よりも自分が偉いという

印象を持つため、失礼である。「鼻」の位置が通常より高い位置にあるため、自分のことを自慢したり、自分が立派だという印象が出てしまう。自慢や自分が立派だと言う感情が人間の中にある心理的な気持ちである。このように、この慣用句の意味の関係はメトニミー関係のひとつの「原因・結果」で結びつける。「鼻の位置が高い」というのは原因としてとられ、その結果は「自慢や得意」の気持ちが出てしまう。このような原因・結果を表した緊密な関係はメトニミーの一つである。

前述の「鼻が高い」慣用句の字義通りの意味と慣用の意味の関係はメトニミー的の拡張が発生され、「部分・全体」の関係が緊密であり、「原因・結果」の関係もある。両意味の関係を以下の図4のようになる。

1. 字義通りの意味 : 鼻が高い
2. 慣用の意味 : 自慢・得意
3. 関係 : 1. メトニミーの (部分・全体)及び (原因・結果)

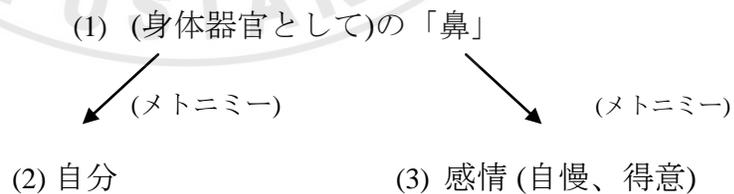


図4 「鼻が高い」の意味関係

2. 鼻に付く

例文：「いくら好きでも、毎日同じ料理じゃ鼻に付いてくる。」

「鼻に付く」という慣用句は「鼻」と「付く」といった言葉から構成される。

この慣用句は動詞慣用句の種類である。この慣用句は下記のような品詞から構造される。「名詞+場所を指定する助詞「に」+他動詞」。

字義通りの意味は身体部分として「鼻」に中心している。一方、基本語用例辞典(1992: 629)によると「付く」というのは表面にくっついて、離れない状態になることである。具体的には下記の例のようである。「泥がズボンに付く」、「顔にインクが付く」、要点としては「到着やくっつく」の意味を表している。「鼻に付く」という慣用句は身体部分の「鼻」、場所や位置を指定する「に」の助詞、くっつくの意味をもっている「付く」という語彙から構成される。「鼻に付く」慣用句を字義通りの意味で表すと‘menempel di hidung’ 「鼻にくっつく」となる。これはこの慣用句の字義通りの意味は自然の意味を持っていることを表す。このように、この慣用句が二つの意味を持ち、それは字義通りの意味と慣用の意味を持っている。「鼻に付く」慣用句の意味を把握するためには、以下のような例文を挙げる。

(72) 香料が鼻に付いて、食べられない。(www.kotobank.jp)

上記の例文が「鼻に付く」慣用句の使い分けを表している。(72) 例文の使用状況として、長い時間でおいがなかなか失わなくて、鼻にくっついていような気がする。この文書の中には、当人は料理に入っている香料のおいが強くてたまらないことを表す。

(73) きざな話方が鼻に付く。(www.kotobank.jp)

- (74) 彼女の図々しさは鼻につきます。(2001 Japanese and Idioms, p:65)
- (75) いくら好きでも、毎日同じ料理じゃ鼻についてくる。(実用ことわざ・慣用句辞典、p:608)
- (76) 留学から帰ってきた友達が留学中の話をいろいろしてくれた。しかし、同じ話を何回も聞かされると鼻についてくる。(すぐに使える実践日本語シリーズ表現を豊かに生き生き慣用句、p:31)

一方では、次の(96)～(99)例文においては「鼻が付く」の慣用句の意味が多少違っている。使用する場面としては、ある作業や物事を同じように何回も繰り返して行うこと。そのため、心地が悪くなり、うんざりになってしまう。その例としては、(96)の例文、話し方が一般調子であり、(97)心地よく感じなくする図々しい性格がある、(98)の例文には、毎日同じような食べ物を食べているので、不快になる。(99)の例文には同じ話が何回も繰り返したため、気持ちが良くない。このように、この慣用句の慣用的な意味は(a)「鼻に離れられないようなにおい」と(b)「うんざりのため、気持ちが良くない」ことである(Kuramochi, p.608)。

両意味の関係は以下のように挙げられる。字義通りの意味の面により、「鼻が付着された或いはくっついている」。一方、慣用的の意味は「鼻から離れられないにおい」と「うんざりして、気持ちが良くない」。「鼻につく」慣用句の字義通りの意味拡張は、「強いにおい」であり、「付く」という言葉から構成され、つまり「接する、付着する」、離れない状態になり強くくっついている。目に見えるものが他のものに付く。それと同様なコンセ

プトで、目で見えない（抽象的）「におい」が実際のもの「具体的」と同様にする。身体部の「鼻」が嗅覚器としての機能を果たしているため、その機能から何かのにおい（香りやくさいもの）がしたらにおいが発生することとイメージされるようになる。「鼻」は「嗅ぐ」の働きを持つ。嗅覚の器官である。「鼻」とはにおいを感じたり、呼吸をする働きをしている。そのところから、「におい」が付いて、鼻から離れない状態になる。鼻に入ってきた嫌なにおいがもともになる成分を旧細胞でとらえ時に「時間」、脳に伝えられている。また、脳がなの臭いの種類もので判断しているというプロセスがある。このように、この慣用句の意味の関係はメトニミー関係のひとつの「原因・結果」で結びつけることができる。「鼻に付く」というのは原因として、「嫌な臭い付着しているというのは離れない状態のものである結果を表した緊密な関係はメトニミーの一つである。メトニミーに基づいて、「鼻に付く」という慣用句の意味が生じたと考えられる。

他方、次の字義通りの意味と慣用の意味の関係は「うんざりで、心地が良くない」ことで、詳細は下記のようなものである。強いにおいがして、長い間なくならないため、心地が悪くなる。これは同じことが何回も繰り返されたため、うんざりしてしまうことと同様のコンセプトを持つ。目の前に見える状況に対して心地が悪くなるところが同様である。従って、「鼻に付く」慣用句の字義通りの意味の意味拡張はメタファーの関係にある。

このように、字義通りの意味の意味拡張は嗅覚の機能を果たしている身体部としての「鼻」の意味に影響され、慣用の意味ができるように拡張意味の構成が影響する。この慣用句はメタファー的の二つの緊密がある。両意味の関係を下の図のように表す。

1. 字義通りの意味 : 鼻に付いている
2. 慣用の意味 :
 - (a) 嫌なにおいが鼻に付いて離れなくなる。
 - (b) 同じなことが何度も繰り返され、飽き飽きして不快に感じること。
3. 関係 : 1. メトニミー
2. メタファー

「鼻に付く」慣用句の字義通りの意味と慣用の意味の両意味の関係の図 5 は以下のように表す。

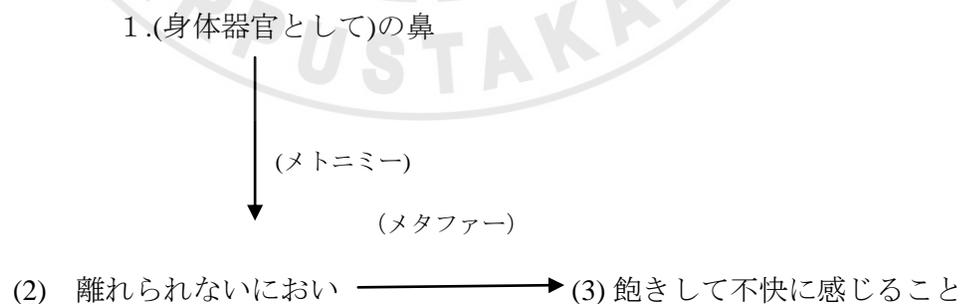


図 5 「鼻に付く」の意味関係

3. 口が重い

例文：「奥さんはおしゃべりだが、ご主人は口が重い。」

「口が重い」という慣用句は「口」と「重い」といった語彙素から構成される。この慣用句は「形容詞慣用句」の分類であり、下記のような品詞・助詞から構造される。「名詞＋主語を表す”が”の助詞＋”イ”形容詞」。

字義通りの意味は身体部分としての「口」に中心される。「口という器官は音声を発するための機能を持つ。また、『広辞典』(1989: 284)による「重い」という意味は、「目方が多い」のことである。具体的には下記の例文の通りである。「石は紙より重い」、「君の荷物は僕のより3キロ(kg) 重い」。その例文においての「重い」というのはものの重さ・目方を表している。「口が重い」慣用句は身体部分の「口」、「が」の助詞、目方の「重い」という語彙から構成される。「口が重い」慣用句の字義通りの意味を見ると「口の目方が多い」の意味を表している。実際には口の目方が多いということがないため、この慣用句の字義通りの意味は不自然な意味を持つ。このように、この慣用句は慣用の意味だけを持つ。

「口」という身体部分の語彙を使用する慣用句の慣用意味を把握するため、下記のように「口が重い」慣用句の例文を挙げる。

(77) おしゃべりも迷惑だが、彼のように口が重いのも困る。(『ことわざ慣用句辞典』p.501)

(78) あの作家は口が重い。インタビューするのが大変である。(『2001 日本語慣用

句・英語イデオム』、タトル商会、p.176)

(79) 奥さんはおしゃべりだが、ご主人は口が重い。(『実力アップ日本語能力試験』UNICOM, p.290)

(80) 君の欠点は口が重いことだ。

(81) 先生：大変だけど、口が重い子にも、発表してもらわないと。

上記の例文 (77) -(78)の慣用の意味は人の性格を現し、即ち他人に対して人前にあまり話せない人(無口)のことを表すという性格である。インドネシア語で同じような意味は”*berat mulut*”というイデオムがある。「口が重い」の意味はほとんどイメージはマイナスなイメージである。例えば、無口という意味を表す慣用句が (74, 75, 77) 、“話し方があまり流暢ではない様子”というわけで他の人によく困らせる場合もある。

その他の「口が重い」慣用句の使用は下記のような例文見られる。

(82) 彼女は口が重い男性に魅力を感じるそうだ。(www.bimyo-kotoba.com)

(83) 男は口が重いくらいのほうがいい、というのが祖母の口癖でした。(『故事ことわざ慣用句・ことわざ辞典』 p. 167)

前述の意味合いと同様で、上記の例文の慣用の意味は人の性格を現し、即ち他人に対してあまり話せない人のことを表す。しかし、この文書での印象は良い印象を持ち、「沢山話せない」という態度を期待する場合も少なくない。「口が重い」の意味のイメージはマイナスなイメージではない。例えば、

(82) の例文には女性は話が多い男性より、話が少ない男性の性格のほうが

好きで、また (83) の例文の中にも祖母は話が少ない男性を選定するように孫さんに助言を与える。Davies J Roger と Ikeno Osamu (2002: 51)によると、日本文化の面から見れば、大昔からも日本には「沈黙」という文化がある。この習慣はスムーズなコミュニケーションができるための方法であると知られている。従って、何かの事を伝えたい場合には、全てを表現せずに話す。

(101) 例文から「沈黙」の文化や習慣が祖母の考え方に多少影響し、話が多い男性、たまに話が多すぎて「全てのことが知っているようだが、実際はそうではない」イメージが出てしまうのが見られる。そのために、日本人の文化においては話し方を管理できて自制できる男性は賢明の人であるため、女性にとっては特別な魅力がある。

(84) 東北人は詩人だ。関西人は評論家だとも言っていた。東北人は口が重い。言いたいことは胸の中で詩になるのだ。
(<http://www.geocities.co.jp/heartland-gaien>)

(84) 例文には、東北の人は心の感情を表したい場合に、相手に対して直接話すよりも詩を作るのが多い。東北の人がそのような性格を持っているため、詩人として知られている。従って、「口が重い」という慣用句の意味は「話が少ない (無口な人)」だが、他人に対して迷惑をかけないため、良い印象の方が強い。

次は、「口が重い」慣用句のほかの意味としては以下のように挙げられる。

(85) いい話ではないので、つい口が重くなる。(www.weblio.jp/content/)

(86) 自分の過去のことになるのと彼は少し 口が重くなった。

(<http://websearch.asahi.com/>)

(87) しかし、彼女には付き合って8年になる彼がいます。でも、彼氏のことについては、詳しくは教えてくれませでしたが、趣味の話や、共通の話題は盛り上がるのであるが、彼に関することについては 口が重い ようである。

(www.soudan1.biglobe.ne.jp)

(88) 祖父は戦争の話が始まると、口が重くなる。きっと、嫌な思い出がたくさんあるのだろう(『覚えて便利な慣用句』、専門教育出版、p.32)

(89) ただ、15%の自治体利用分をどこにするかなどについては「都や沿線市と協議している最中だ」と 口が重い。(<http://www.asahi.com/travel/rail/news>)

上記の (85) ~ (89) の文脈から見ると、「口が重い」慣用句の意味は第1部と第2部のような性格の意味を表していない。(85)の例文から見ると、主語が自分であり、話に対して心地が良く感じないので、落ち着かなくなり、つい無口な人になってしまう。しかし、事実から見れば、当人はそのような性格を持つわけではなく、実際にはおしゃべりな人であるかもしれない。心地が良く感じないことの例としては (86) と (87) の例文に明確に見られ、(105) には趣味の話や、共通の話題をする場合には盛り上がるのだが、個人的の話をする場合には話しにくくなってしまう。(88) の例文も同様であり、昔に戦争の経験を持つ祖父は、戦争の話が始まると、昔の嫌な思い出が出てしまう。他人に対して、その話をするには、もちろん簡単なことではない。(89)の例文には、政府は自治体利用分に関して明確に答えない。これは機密の事項で、公衆の前で演説することではないためである。

上記の(80-84)の慣用句の使用例文には「公衆の前に話が少ない」(特別な場合のみ)ということの意味する。「口が重い」慣用句の慣用的の意味は：いい印象及び悪い印象を持つ公衆や人の前にたまに話す(無口の性格)こと、人の前では沢山話さない(特別な場合のみ)ことである。Kuramochi (1999)、Suherman (2002: 88)の意見と同様で、日本語慣用句の「口が重い」とは話が少ない人(無口の性格)を表している。さらに、Sutedi (2009: 94)によると、「口が重い」慣用句は公衆名前で勝手に話さないことを意味する。

「口が重い」慣用句の字義通りの意味や慣用の意味の両意味の関係は次の考慮で記述する。この慣用句の字義通りの意味は「口の重量が重い」ことである。この文脈には「口」は音声を発するための機能を果たしている身体部分のひとつであり、「重い」はできる事や能力以上のことのため、実施するのが難しい、困難のことを意味する。他人に対してのコミュニケーションにおいては、コミュニケーションがスムーズにできるために様々なことを考えなければならないのである。例えば、話の相手側はどのような人なのか、どのようなことを伝えるのか、相手側にどうやって適切に物事を伝えるのかを十分に理解できていないとはいけないのである。そのため、他人に対して、物事や自分の気持ちを簡単に伝えられる人は多くなく、また人の前に話すことに慣れていない人はに。他人に対して物事を伝えずらい気持ちや大変なことなので、口が重くなってしまい開けなくなる。そのために、当人は人の前に話が少なく

なり、必要なことだけを伝える。何かのために口が開けなくなる状態は慣用句の全体的な意味としては「無口な人」や「人の前にあまり話せない人」のような性格を現す。これはメトニミー的の「原因・結果」の関係をもつと考えられる。「口が重い」のは原因として、「当人は人の前に沢山話せなくなる」のがその結果になる。「口が重い」慣用句の字義通りの意味および慣用の意味の両意味の関係グラフは以下の図6のように表現する。

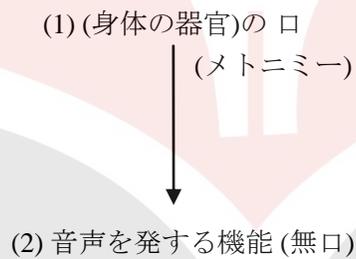


図6 「口が重い」の意味関係

4. 口が多い

例文：「普段無口な彼も酔うと口が多くなる。」

「口が多い」という慣用句は「口」と「多い」といった語彙素から構成される。この慣用句は「形容詞慣用句」の分類であり、下記のような品詞・助詞から構造される。「名詞＋主語を表す”が”の助詞＋”イ”形容詞」。

字義通りの意味は身体部分としての「口」に中心される。また、広辞典(1989: 247)による「多い」の意味はもの野数や量が豊かのことである。具体的には下記の例文のようである。「日本は山が多い」、「今日はお客さんが多

い日だった」。「口が多い」慣用句は身体部分の「口」、「が」の助詞、数の「多い」という語彙から構成される。「口が多い」慣用句字義通りの意味を見ると「口の数が多」の意味を表している。事実には口の数が多ということがないため、この慣用句の字義通りの意味は不自然な意味を持つ。このように、この慣用句は慣用の意味だけを持つ。

「口が多い」慣用句の使用例は下記のような例文で見られる。

- (90) 君は口が多いので、その分よけいに時間がかかるようだね。少し慎んでください。(Suzuki: 183)
- (91) 普段無口な彼も酔うと口が多くなる。(実用ことわざ慣用句辞典、p.501)

上記の(1)-(2)の例文においての「口が多い」慣用句の意味は全体的には必要な分だけを話す、逆に言葉を沢山使って話すため、必要のないことについて話すと考えられる。例えば、(1)の例文には話しが多いため、時間がかかって、場面に対しては不適切になってしまう。他方、(2)の例文には通常の場合には話が少ないが、酔うになると、意識せずに口から出てきた言葉が多くなってしまう。慣用的の意味は「話が多い」のことである。言わないほうがいいことを言う(Shuzuki: 183)。

字義通りの意味と慣用の意味の両意味の関係は下記のように考えられる。口は話すつまりものを言う機能を果たしている人間の感覚器官のことであり、「多い」は数が一つ以上あることである。だが、この文脈においての「多い」

というのは口の数が多いいことを表し、「話す」器官としての口の機能を強調する。一方、この慣用句の慣用の意味は話が多いこと、言わないほうがいいことを言ってしまうであること。

「口が多い」慣用句においては話が多いということが入り込んで、即ち、通常の人より話すの量が多いため、沢山のことを沢山の人の人に話して、一つの話が終わったら、次の話に続いて、必要のないことまで言ってしまう。

「口が多い」のは原因として、「話が多くなる」のはその結果である(原因・結果の関係)。「口が多い」慣用句は必要数以上に物事を話す状態を表現する。両意味の関係は以下の図7のように表す。

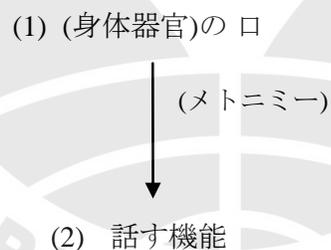


図7「口が多い」の意味関係

5. 耳が痛い

例文：「彼が先生に注意されているのを聞いていて、私も耳が痛かった。」

「耳が痛い」という慣用句は「耳」と「痛い」といった語彙素から構成される。この慣用句は「形容詞慣用句」の分類であり、下記のような品詞・助詞から構造される。「名詞＋主語を表す”が”の助詞＋”イ”形容詞」。

字義通りの意味は身体部分としての「耳」に中心される。また、「痛い」の意味は痛みを感じることである。具体的には下記の例文のようである。「ナイフで指を切って、とても痛かった」。身体部分の指がナイフで切れている状態のため、気持ちが悪くなり苦しめる状況が考えられる。「耳が痛い」慣用句は身体部分の「耳」、「が」の助詞、「痛い」という語彙から構成される。

「耳が痛い」慣用句の字義通りの意味を見ると、「耳に痛みを感じずる」意味を表している。字義通りの面ではこの慣用句が身体部分の耳が痛い、物理的に痛い場合に実際の意味が使用される。従って、この慣用句の字義通りの意味は自然である。このように、この慣用句は二つの意味を持ち、それは字義通りの意味と慣用の意味である。

「耳が痛い」慣用句を使用する慣用句の慣用の意味を把握するためには、以下のような例文を挙げる。

- (92) そうおしゃられると、いやはや何とも耳が痛いことである。〔例解慣用句辞典〕
- (93) 彼が先生に注意されているのを聞いて、私も耳が痛かった。〔実用ことわざ慣用句辞典〕
- (94) それは耳が痛い話である。(実アップ日本語能力試験,p.290)
- (95) よく考えないから、失敗するんだと言われて、耳が痛かった。〔覚えて便利な慣用句,p.〕

上記の「耳が痛い」慣用句を使用する例文においては、ある人は自分の

心を悩まされることに対して嫌になる場面がある。(1~4)の例文には耳に痛みをさせる話が大体である。各人は短所を持ち、よくない方法で人の前に話されるのが好まないのはもちろんのことである。これは、ことわざ慣用句辞典においての意味と同様で、この慣用句は自分の短所に関する話を聞いてたまらないことを意味する。このように、耳が痛いという慣用句は恥ずかしくさせるような自分の短所に関する話を聞いてたまらない状態を表現するとき使用される。

上記の例文には、痛いのは物理的の耳のことではなく、自分の短所について聞いてたまらない気持ちを表している。「耳」とは物事の音声を聞くための機能を果たしている身体部分の一つである。「耳が痛い」に含まれている

「耳」の語彙を慣用の意味と関係すると「耳」は物事(心を悩まされること)を聞くための容器のことを意味する。耳と聞いたことは「空間・時間」的の緊密な関係を持つ。それは痛むきもちが外部から聞いた言葉が入ったときには見えないためである。この文脈においては、物理的に目で見える耳が聞いた話を捉えるためには重要な役割を持ち、この慣用句の全体的な意味に影響する。そのため、この慣用句の両意味の関係はメトニミーの関係を持ち、つまり「空間・時間」的の緊密の関係を持つ。そのような両意味の関係は以下の図8のように表す。

(1) 耳(身体器官)

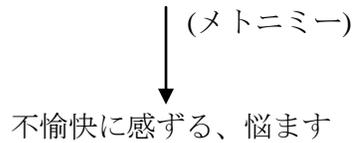


図8 「耳が痛い」の意味関係

1. 耳が遠い

例文：「年を取ったら、耳が遠くなってきた。」

「耳が遠い」という慣用句は「耳」と「遠い」といった語彙素から構成される。この慣用句は「形容詞慣用句」の分類であり、下記のような品詞・助詞から構造される。「名詞＋主語を表す”が”の助詞＋イ形容詞」。

字義通りの意味は身体部分としての「耳」に中心される。また、「遠い」の意味は距離がはるかだということである。具体的には下記の例文のようである。「私の家は駅から遠い」と「都会に出てきて、遠いふるさとを懐かしいと思う」。つまり、位置の隔たりが大きい(遠い・近い)事を表している。「耳が遠い」慣用句は身体部分の「耳」、「が」の助詞、距離が「遠い」という語彙素から構成される。「耳が遠い」慣用句の字義通りの意味を見ると、「耳の距離が遠い」意味を表している。従って、この慣用句の字義通りの意味は不自然になる。従って、この慣用句の字義通りの意味は自然である。このように、この慣用句は慣用の意味しかもっていない。事実には耳が身体部分の一つであり、頭にくっついているため、当人の所有者と距離が遠い耳がないはずである。

「耳が遠い」慣用句を使用する慣用句の慣用の意味を把握するためには、以下のような例文を挙げる。

(96) 「そふ祖父は耳が遠いので、テレビをだいおんりょう大音量で見ます」

<<http://bimyokotoba.com>>

(97) もっと大きな声で話してくれませんか。私は耳が遠いのである

<<http://thejapanesepage.com>>

(98) おばあさんは年を取っているので、耳が遠い< <http://www.linkedin.com>>

上記の例文は「耳が遠い」慣用句の使用し方である。使用する場面は聴覚能力が低い場合、音声がよく聞こえなくなってしまう。(96)と(98)の例文のように、おじいさんは大音量でテレビを見る。また、(97)の例文においてはおばあさんが年をとったため、聴力が弱くなる。この慣用句の主語になるのは年をとったり、生まれてから聴覚が良く機能していない方である。基本的には「耳が遠い」慣用句は「聴力が弱い或いは耳が聞こえない」慣用の意味を持つ。これは倉持(1999)の意見と同様であり、日本語慣用句の「耳が遠い」とは聴力が弱くなってしまいうため、音声を聞くのは難しくなる状態の意味を表す。さらに、Sutedi (2009: 106)によると、「耳が遠い」の慣用句は聴力が低くなることを意味する。

上記の両意味の関係は以下のようなことで表現することができる。「耳が遠い」の字義通りの意味は「耳の位置が遠い」から「聴力が弱い」に意味が変換する。「聴力を失う」音声を聞くのは難しくなり、同じような意味を「聴

覚不具合」と知られている。この場合には完全に聞こえない意味ではないのである。「耳」は音源からの音声を聞くための器官である。音源が発生した音の位置が遠ければ、空気を通じる聴力も低くなって弱くなってしまふ。そのため、音源は空気を通すときに耳と近いところであれば、よく耳につくはずである。ここには関係が発生し、音源から遠いところから音声を聞くと、聴力が弱くなる。「耳が遠い」は原因であり、その結果として「聴力が弱くなる」(原因・結果関係)。「耳が遠い」慣用句は

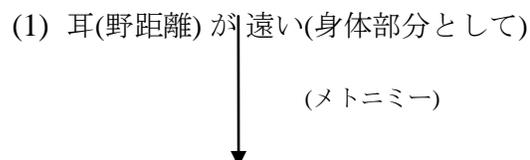
聴力が弱くなるため、よく音声を聞くことができなくなる状態を表現するために使用される。このような緊密な原因・結果関係はメトニミーの一つの形である。(Sutedi, 2009: 75).

前述の「耳が遠い」慣用句の字義通りの意味と慣用の意味の関係にはメトニミー的の拡張が発生する。

1. 字義通りの意味 : 耳(の距離)が遠い
2. 慣用の意味 : 耳が聞こえない或いは聴力が弱い
3. 関係類 : メトニミー(原因・結果)

耳(の距離)が遠い→聴力が弱い或いは耳が聞こえない

上記の両意味の関係を以下の図 9 に表す。



(2) 聴力が弱い (耳が聞こえない)

図9 「耳が遠い」の意味関係

7. 目を覚ます=目が覚める

例文: 「散々な目にあって、やっと目が覚めた。」

「目が覚める」という慣用句は「目」と「覚める」といった語彙素から構成される。実用ことわざ慣用句辞典(p:659)によるとこの慣用句が「目を覚ます」の慣用句の意味と同様である。この慣用句は「動詞慣用句」の分類であり、下記のような品詞・助詞から構造される。「名詞+主語を表す”が”の助詞+自動詞」。

「目が覚める」慣用句に含まれている「目」の意味は字義通りの意味を持ち、それは身体部分としての「目」である。広辞典(1989:787)によると、「覚める」というのは「目が開いた状態(眠りから起きた状態)」のことである。意味としては次の例文の意味と同様である。「私はたいてい6時ごろに目が覚めます」、「寒いときには、早く目が覚めていても、なかなか起きられません」、つまり「眠りから起きた状態」を意味する。字義通りの面ではこの慣用句が身体部分の目が起きた。「目が覚める」慣用句の字義通りの意味を見ると、「目が起きた状態」の意味を表している。従って、事実にはこの慣用句の字義通りの意味は自然である。このように、この慣用句は二つの意味

を持ち、それは字義通りの意味と慣用の意味である。

「目が覚める」慣用句を使用する慣用句の慣用の意味を把握するためには、以下のような例文を挙げる。

(99) 彼はやっと目が覚めて、悪い仲間との縁を切りました。(2001-Japanese- English)

(100) 自堕落な生活を送っていた彼も母親の死で目が覚めたのか、新しい自分の生き方の模索をしているようだ。〔例解慣用句辞典, p.133〕

(101) さんざんな目にあって、やっと目が覚めた。(実用ことわざ慣用句辞典), p.654)

(102) 母が泣かれて、目が覚めた。(www.geocities.jp)

(103) 友人の忠告に目が覚める。(www.webl.io.jp)

(104) ひどい目にあって、やっと目が覚めた。(www.bimiyokotoba.com)

上記の例文から見ると、「目が覚める」慣用句の意味はある人は前にやった悪い行動から、普段のいい行動の状態に戻りたい場面に使用される。例えば、(99)の例文には、従来までは彼が悪い友達と遊んでいたが、それが良くないことだと気づいて、その友達関係を切れると決めたことを表している。また、(2)の例文には、従来まで暗い生活から悟る。親密な人からの一言や出来事の発生によって自分の誤りを意識するようになる。(2)の例文にも、家族死亡や、母が泣かれることが転換期になって悟る方向に行くようになる。或いは、(5)の例文においては友達に忠告されてから、或いはひどい目にあっただけ、意識が戻る。

このように、「目が覚める」慣用句の慣用意味は黒町(1987: 654)の考慮と同様で、「物事に対して意識が戻る」正しくすることを意味する。例を挙げる

と、昔にはよくあやまちをしていたが、自分を意識させる物事があったため、いい方向に変わるようになる。人を意識させる物事というのは普段は親(この文脈では母親)や友人のような自分と親密の関係を持つ外部からの要因が強く、或いは自分が苦勞したことを過ごしたことも一つの要因となる。

前述の両意味の関係から、「目が覚める」慣用句は「目が開いた状態」の字義通りの意味を持つと考えられる。一方、慣用の意味は「悪い行動に対して意識が戻る」ことである。この文脈には身体部分の一つとしての「目」が「覚める」→開いた状態、眠りから起きた状態。この慣用句の中心になる「目」が眠る状態で、眠っている人は周りの話が聞いていなくて、状況もわからない状態にある。だが、何かや誰かに起こされたら、目が覚めて、眠りから起きる(意識が戻る)状態になる。そのために、悪いことから意識が戻った状態の人と比較すれば、当人はその行動をやめて通常の行動に戻るようになる。このように、目が覚めたことは原因として、意識が戻ることはその結果になる。これは、「原因・結果」の関係を持つためメトニミーの形の一つになる。

前述の「耳が遠い」慣用句の字義通りの意味と慣用の意味の関係にはメトニミー的の拡張が発生する。

1. 字義通りの意味 : 目が覚める
2. 慣用の意味 : 自覚する

3. 関係類 : メトニミー (原因・結果)

目が覚める → 自覚する

上記の両意味の関係を以下の図 10 に表す。

(1) 目が覚める

(メトニミー)

(2) 意識が戻る、自覚する

図 10 「目が覚める」の意味関係

8. 目を通す

例文：「前もって、この書類に目を通しておいてください」

「目を通す」という慣用句は「目」と「通す」といった語彙素から構成される。この慣用句は「動詞慣用句」の分類であり、下記のような品詞・助詞から構造される。「名詞＋目的語を表す「を」助詞＋他動詞」。

「目を通す」慣用句に含まれる「目」は字義通りの意味の身体部分としての「目」を意味する。広辞典(1989: 1386)による「通す」動詞の意味は、「通過」のことである。意味としては下記の例文のようである。「今度この道にバスを通すだ」、「カーテンを通して、光が見える」。従って、この語彙素の字義通りの意味を「目を通す」の慣用句に入れると、身体部分としての「目」が

「通す」或いは「通過」する、つまり字義通りの意味は「目を通過する」これはこの慣用句の字義通りの意味は自然の意味を持っていることを表す。このように、この慣用句は二つの意味を持ち、それは字義通りの意味と慣用の意味である。

「目を通す」慣用句の慣用意味を把握するため、下記のように様々な例文を挙げる。

- (105) 時間がないので、新聞にざっと目を通して出かけた。(『慣用句辞典小学生の漫画』 p. 169)
- (106) 人によっては雑誌を買ってパラパラ目を通して終わりの人もいますよね
(<http://soudan1.biglobe.ne.jp>)
- (107) テストのときは、まず問題に目を通して、簡単そうなものからはじめたほうがいい。(『覚えて便利な慣用句』、p.24)
- (108) 広告に目を通す (<http://ejje.weblio.jp>)
- (109) 「前もって、この書類に目を通しておいてください」(『故事ことわざ慣用句・ことわざ辞典』 p. 660)
- (110) 資料をお送りするので、あらかじめ目を通しておいて下さい。(例解慣用句辞典, p.311).

上記の「目を通す」慣用句の(105～110)例文から、「目を通すの」慣用句は人は時間がないためザーッと読み物を読む場合に使用されることがわかった。例を挙げると、(105)の例文には明確に「時間がない」を表し、そのため新聞をザーッと読んでいる。また、(106)の例文には雑誌をパラパラ見る(重要なところだけ)。(107)の例文には試験の時に時間が限られているので一番簡単

な問題点を先に選んで、問題を早く読むことが重要になる。(107)の例文には広告をザーッと見る。広告や掲示は一目でわかるものであるため、具体的に読まなくてもわかるものである。さらに、(108-110)の例文には場面は職場で具体的に説明する書類、会議内容をザーッと理解しなければならない。前述の例文から「目を通す」慣用句は「読み物をザーッと見る・読む」ことを意味することでまとめられる。

このように「目を通す」慣用句の意味は倉持(1987: 660)の意見と同様で、文章や読み物をザーッと読むことを意味する。その文章の対象は普段は：新聞、雑誌、資料、内容、広告、テストの問題点などである。使用する場面は普通は限られている時間にある。(沢山の時間を持っていない)。

両意味の関係には以下のような考慮が考えられる。「目を通す」の字義通りの意味は「目を通過する」。一方、慣用の意味は「ザーッと読むこと」。この場合の「ザーッと」とは速読の方法のことである。読むとは文書で書いたものから情報を取得する方法である。読書は情報を求めるための一番よく使用されている方法である。効果的な読書は明確な情報を捕らえるための重要なポイントであり、時間の無駄もなくされる。もともと日本人が働き蜂の人間と知られて、時間を守る文化で有名。

読書においてはいくつかの方法があり、その二つの例としてスキミング方法とスケーニング方法がある。スキミング方法は文書の上、中、下のところ

に含まれているメインアイデアや重要なデータから要点を取得する方法。また、スケーニング方法は他のものを読まずに、特定の事実の要点に直接読んで情報を取得するための速読の方法である。

慣用句のメインになる「目」の語彙素は見る機能を果たしている身体部分である。瞳の場合は目で見て、脳髄で覚える。他の表現で言うと、目は脳髄と緊密な関係を持つ。視覚を通して入っている情報は脳髄に入って、次のプロセスに流す。情報を見る、観察、思考などができる脳髄の一つの部分に流す。目が取得した情報はザッと見ると、脳髄に入ってくるプロセスも早くなる。そのため、速読方法を選択することにより、読書が効果的にいなり時間節約で情報を多く取得することができる。

このように、目は脳髄と緊密な関係を持つ。文書を見るのは視覚の機能を果たしている目であるが、読むときには実際は脳髄がもっと深刻に働き、情報の理解もできるようになる。従って、「目」には時間・場所の緊密な関係を持つ。そのため、「目を通す」の字義通りの意味は「ザッと読む」の慣用の意味に拡張し、時間・場所的な関係を表している。これはメトニミーの一つの類である。

字義通りの意味 : 目を通過する
 慣用の意味 : ザッと見る・読む
 意味の関係 : 時間・場所緊密関係 (メトニミー)

目を通す□ザッと見る

その両意味の関係は以下の図 11 に表す。

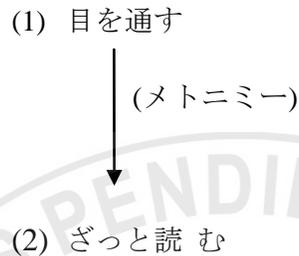


図 11 「目を通す」の意味関係

9. 舌を巻く

例文: 「彼女の語学力には舌を巻く。」

「舌を巻く」という慣用句は「舌」と「巻く」といった語彙素から構成される。この慣用句は「動詞慣用句」の分類であり、下記のような品詞・助詞から構造される。「名詞+目的語を表す”を”助詞+自動詞」。

広辞典(1989 : 1847)によると、「巻く」というのは「平坦な状態のものを円筒形・球状にする」のことである。「舌を巻く」慣用句に含まれている「巻く」の意味は「タバコを巻く」、「ポスターをきちんと巻く」の例文の意味と同様である。その例文における「巻く」動詞に対する目的語としては巻物であり、タバコ、ポスター、紙などのような巻くことができるものである。他方、身体部分としての「舌」は巻くことができないものである。「巻く」の動詞に対する「舌」の目的語の語彙素は不自然になる。このように、「舌を巻く」慣用句の字義通りの意味は「舌を円筒形にする」ことである。

これは不自然な意味になるので、「舌を巻く」慣用句が字義通りの意味を持たず、慣用の意味しか持たない。

「舌を巻く」慣用句を使用する慣用句の慣用の意味を把握するためには、以下のような例文を挙げる。

- (111) 彼女の雄弁に舌を巻きました。(2001 Japanese-English Idioms, p.270)
- (112) 彼女の語学力には舌を巻く。何しろ英独仏の三か国語の他に、タイ語と中国語ができるのだから。(実用ことわざ・慣用句辞典)
- (113) いつ習い覚えたか知らないが、彼の英会話の上手のには舌を巻いた(例解慣用句辞典)

驚かせることや感心させることが様々あり、例えば、(111)例文のように、人の雄弁であり、また(2)と(3)の例文には語学力(外国語)である。

- (114) 全国美術コンクールで入選した作品は、どれもこれも、舌を巻くできばえだった。実力アップ日本語能力試験)
- (115) 私たちは彼女の美術的才能に舌を巻いた。(慣用句の意味と用法)
- (116) 鮮やかな右打ちには「あれが出来る人が強い」と舌を巻いた。(慣用句の意味と用法)
- (117) 彼の問題解法を聞いて舌を巻いた。(慣用句の意味と用法)
- (118) 彼のせoirよく精力には舌を巻いてる。(慣用句の意味と用法)
- (119) 音楽会での、麻衣子さんのピアノ演奏のすばらしさに、みんなが舌を巻いた。(小学校のまんが慣用句辞典)

その他として、(114, 115)の例文には音楽的の才能つまりピアノを弾くこと、(116)の例文には運動においての才能、(117)と(5)の例文に作品やは美術的の才能、(117)の例文には問題解決、また(118)の例文には、精力や、努力のすばら

しさ等である。

前述の全ての例文から、主語（私や私たち）が他人が行った行動に対して、驚嘆し、即ち非常にびっくりして、ひどく感心することが見られる。自分の能力以上で自分より優れているため、感心の感情を強調したい。宮路(1982)の考慮と同様で、「舌を巻く」慣用句の慣用の意味は感心させる結果や達成感、精力、能力、と非常の場合等のような事に対して驚嘆する事を言う。他方では、クラモチ (1987: 183)によると、「舌を巻く」から構成された慣用の意味は「他人が行った行動に対して、驚いて、口が聞けない様子。またひどく感心する様子」のことである。この慣用句に使用されている目的語は性的(美しさなど)の現象ではなく、動態的の現象を表す。この慣用句は自分ができる事以上や自分の能力より優れていることに対して驚いて感心する場合に使用される。この感情は話側の自身から意識して、驚いた気持ちを強調したいことによって発生されたものである。

「舌を巻く」慣用句の字義通りの意味と慣用の意味の両意味の関係は以下のように考える。「舌」というのは「巻く」他動詞の目的語としての言葉である。即ち、舌が巻く目的語には特性がある。巻くというのは平らな状態のものを円筒形の状態にすることである。重要な点は「舌」を強調するではなく、言葉を表す。

この文脈には指定するのは実際の「舌」のことではなく、「言葉」の意味

を強調する。一方、「巻く」とは物事を整理することを言う。つまり、「言葉」を整理する。伝えている言葉が失うため、弱くなってしまい、静かな気持ちを表す。「舌」は言葉を発する器官であり、他の慣用の例としては「舌が鋭い」。勝利を得るのは無理であるため、意見を言うとき、感心するときに使用される。「舌を巻く」とは、舌の先の方を巻き上げることを言う。実施してみれば、理解できる。他方では、クラモチ (1987: 183)によると、「舌を巻く」から構成された慣用の意味は「他人が行った行動に対して、驚いて、口がかけない様子。またひどく感心する様子」のことである。即ち、驚かせ、感心させた物事があったため、気づかなくて口をあけている状態になり、舌が巻いている状態ほど言葉が出なくなってしまう。顔の部分が開けているのは口だが、「舌」は口の中にあるので、距離的に近いところにある。このように「舌を巻く」慣用句の字義通りの意味拡張としては「距離・時間」的の緊密を持っている「驚嘆」の慣用の意味になる。これはメトニミーの同類である。上記の両意味の関係は以下の図 12 のようになる。

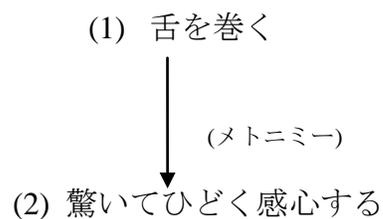


図 12 「舌を巻く」の意味関